

スポーツのチカラで ふくろいを元気に笑顔にする

少子化 高齢化 多様性 新自由主義 多文化共生

袋井市スポーツ協会 溝口 紀子

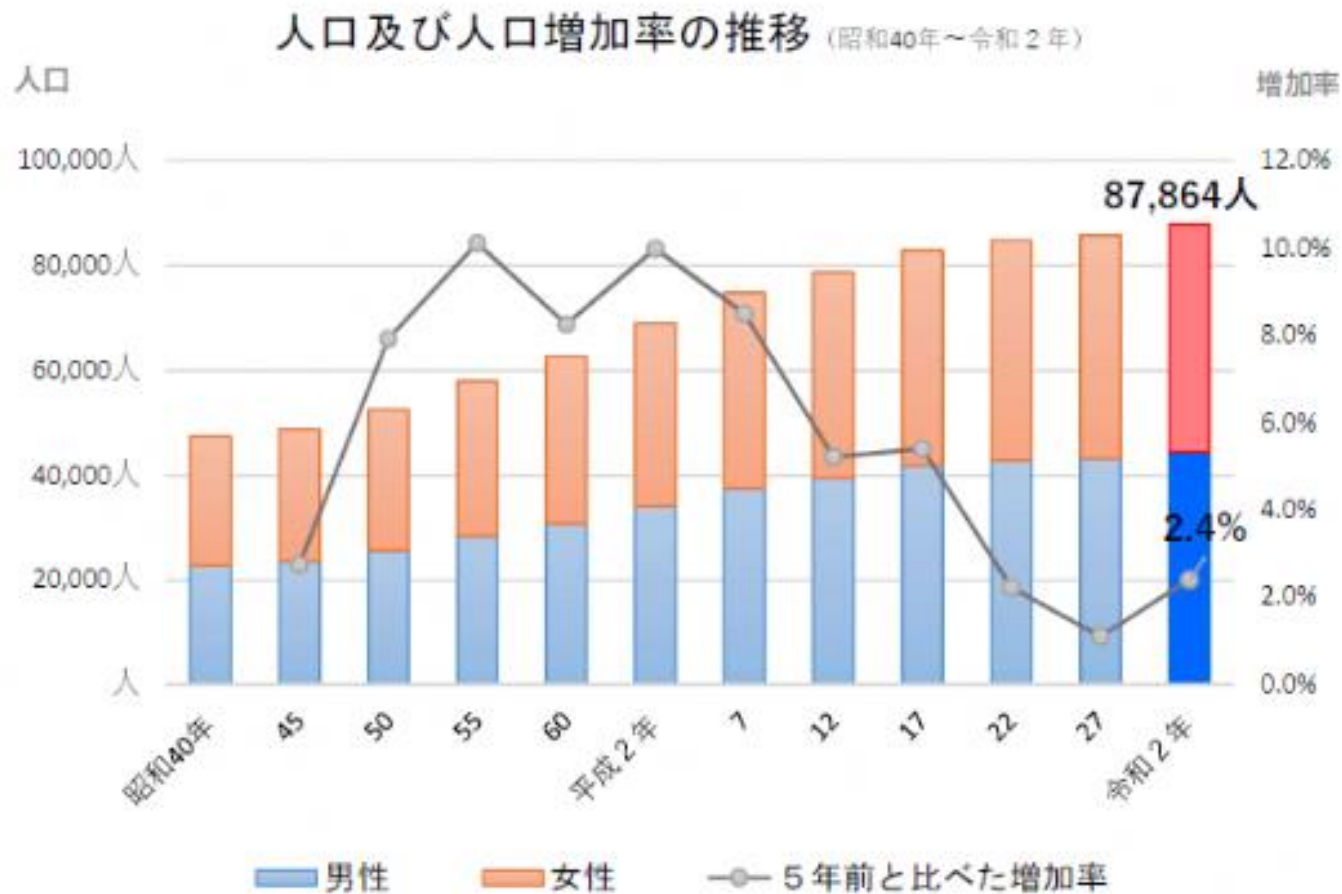
目次

- ◆背景・問題点
- ◆仮説・提案
- ◆手段（解決策）
- ◆まとめ



背景・問題点

人口が減っていく 小さな街に？
少子化と高齢化と多様性の時代へ

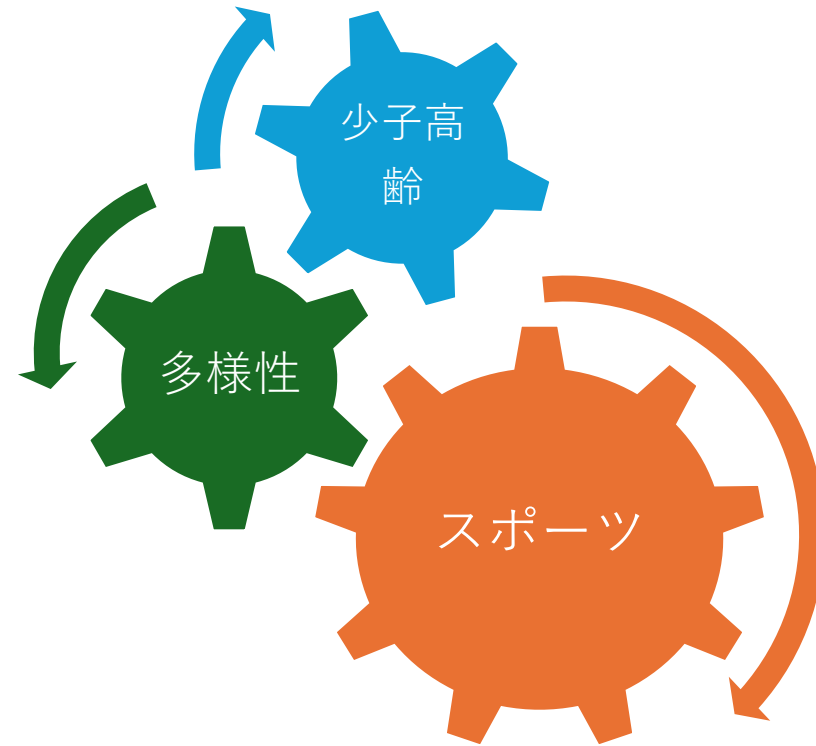


20年後
80000人規模

仮説・提案

スポーツ投資のススメ

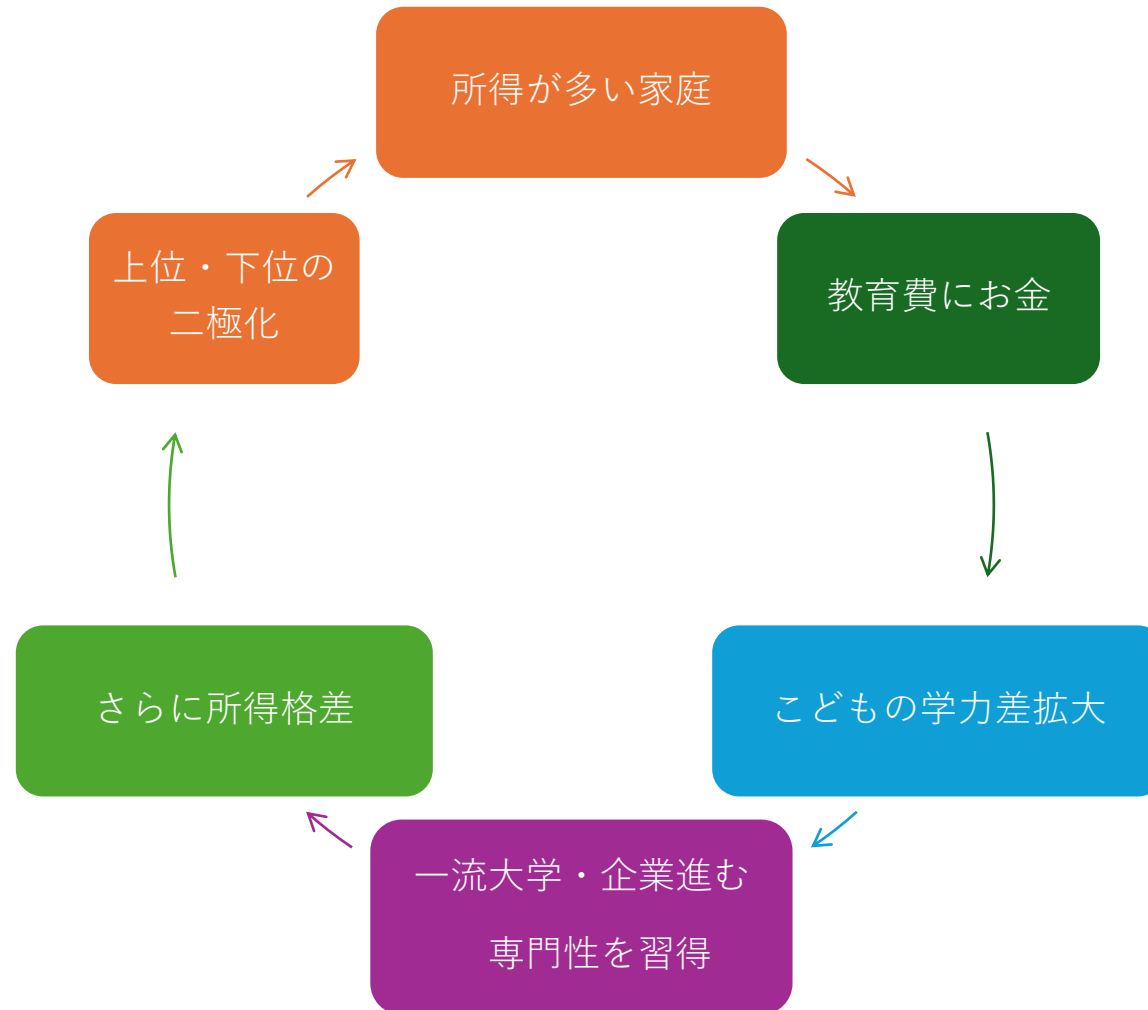
スポーツ投資で
一人が、現状より
元気と笑顔が2倍にすれ
ば
人口が減っても、生産性、
幸福度は2倍



東京都のスポーツ格差問題 袋井市は？

- 東京は格差が明確なだけに、子どもが学校で体を動かすスポーツの機会を、人為的に用意しなければ体力低下・肥満につながる
- 言い換えれば教育投資の姿勢の差で収入格差が生じる。
- 貧困→虫歯→肥満（ファーストフード・ジャンクフード）貧困層は安価でカロリーの高いお菓子やハンバーガーを与える
- 富裕層はオーガニック野菜（高級食材）を購入。
- 学校外の運動の機会が経済力に依存する（塾通いしている方が成績がいい傾向）

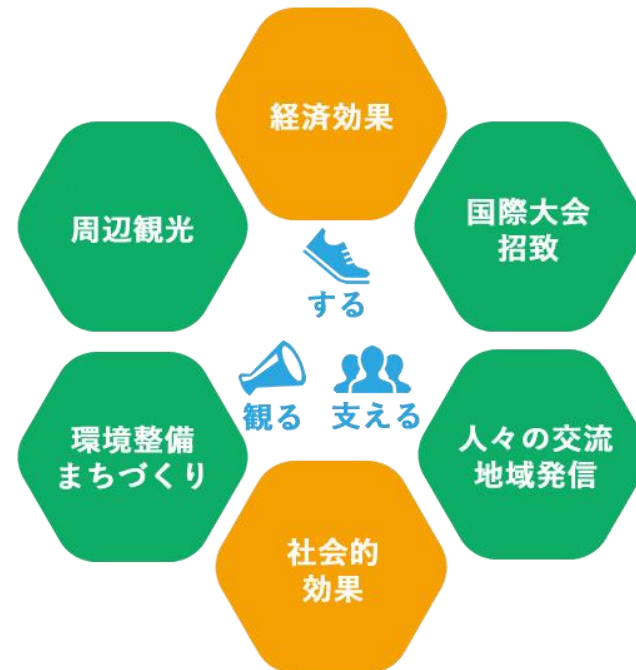
教育格差の連鎖



教育・スポーツから格差を是正できる！ 多幸福感のある社会へ

- フランスでは10歳以下の子どもの水泳教室は無料、スポーツクラブへの補助金制度（部活がないから）
- スポーツでは「君ならきっとできる」期待されること
で成績があがる（ピグマリオン効果）
- 期待されなければ成績は下がる（ゴーレム効果）
- 上位になることが目的ではなく、序列（ランキング）という指標のなかで目標を定め、「自己肯定感」、「自己効力感（自分の能力や行動に対する信頼感）」をいかに習得させるかが大事
- 発達期に意欲や能力の高い集団に生じるお互いを高めあおうとする効果（ピア効果）をもつ集団に育てる

- スポーツツーリズムとは、
- スポーツを見に行くための旅行およびそれに伴う周辺観光や、スポーツを支える人々との交流などスポーツに関わる様々な旅行のこと。



スタジアム、アリーナによる スポーツ文化の拠点

- スポーツによる街づくり、スポーツを活かした交流拠点の醸成をしていく
- 開場した2012年以降、長岡市中心市街地の歩行者通行量が増加している
- スポーツ・文化イベントを開催する**多機能複合施設**でスポーツ施設を中核にした街づくり
- 市役所本庁舎、屋根付き広場、交流ホールに加え、Bリーグ・アルビレックス新潟BBのホームアリーナ併設
- 長岡市歩行者通行量調査によると、**アオーレ 長岡**が開場した**2012年以降、長岡市中心市街地の歩行者通行量が増加**している

まとめ

スポーツ投資は社会資源になる

- 学力 体力 健康（心も） = 教育力
- 所得ではなく、教育力の質の高さ、金の卵を育てることとで魅力ある街づくりを推進し、人口、若い子育て世代が流入してくる。
- 人口が増え税収があがり、教育・スポーツ投資ができ相乗効果がうまれる
- これからはスポーツの力が地域や社会を変えていく。教育権、スポーツ権は平等に存在する。
- 11年に成立したスポーツ基本法は、スポーツについて「地域の一体感や活力を醸成するものであり、人間関係の希薄化等の問題を抱える地域社会の再生に寄与する」としている

スポーツ(X) = スポーツのチカラ

X = 多目的施設 ツーリズム 地域部活 高齢者 多文化 etc

ご視聴ありがとうございました。